

デーリー東北
2022年(令和4年)12月18日(日曜日) (16)

ソフト設計技術競う「ETロボコン」全国大会

11月に横浜市で開かれたソフトウェアの設計技術を競う「ETロボコン2022」(組込みシステム技術協会主催)の全国大会で、共に八戸工業大4年の昆野幹人さん(22)と柳沢元就さん(22)のチーム「ヒット&ラン」が、プライマリークラスで準優勝を果たした。2人は「すごくうれしい。プログラムの修正を続けた結果が出た」と喜んでいる。(藤村大地)

昆野さん、柳沢さん(八工大)準V

ノーマリスで快挙「うれしい」

コンテストでは、決められたコースをロボットが自律走行し、その速さや動きの正確さを競った。各チームは共通のロボットを使用するため、勝負を分けるのは機械の動きをコントロールするプログラム「組み込みソフトウェア」の設計技術だ。

2人は同大の山口広行准教授の研究室に所属。研究室では、ソフトウェア開発技術者育成のため、大会スタート当時の2008年から出場しており、本年度は2人がエントリーした。全国規模での入賞は初の快挙だという。

柳沢さんはコース上の障害物をよけて通過する「スラローム」、昆野さんはボーンスブロックを指定された場所に移動させる「ガレージ」のプログラムをそれぞれ担当。調整を何度も繰り返しながら、最適な動作になるかを追求した。

9月に盛岡市で行われた東北地区大会を総合準優勝で突破し、全国大会でもミスなく競技を終えて準Vに輝いた。昆野さんは「こんなにすごい結果を出せるとは思わなかった」と笑顔。柳沢さんは「一度作ったものを破棄して考え直すのは大変だったが、成功のためには必要なことだと分かった」と語った。

2人は今後、ソフトウェア開発の仕事に携わっていく予定。「修正し、調整し続けるのは大変だけど良い経験になった。これからは生かしたい」と話している。



全国大会で準優勝した昆野幹人さん(左)と柳沢元就さん

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。